

神崎(会津北嶺)フライ級5位

減量乗り越え成長



【ボクシングフライ級準々決勝】相手との距離を詰め、果敢に攻めた会津北嶺の神崎烈(右)＝北ガスアリーナ札幌46

ボクシング

(北ガスアリーナ札幌46)

▽フライ級準々決勝

佐々木大斗

(青森山田)

判

定

神崎烈(会津北嶺)

強烈なパンチを食らっても、倒れそうになっても、前へ出るのをやめなかった。ボクシング男子フライ級(体重49〜52キ)準々決勝で敗れた神崎烈(会津北

嶺3年)は攻めの姿勢を貫き、5位入賞を果たした。「上に行けず悔しいが、入賞は成長を示せた結果だ」と無念さの中に、誇らしさをにじませた。

全国大会で表彰台の経験がある相手との一戦は打ち合いとなった。「相手は格上。距離を詰めて、打ちにくいしか勝ち目はなかった」。

第1ラウンドでボディブローを許し、一度は倒れ込む苦しい試合展開となったが、最後まで相手の懐に飛び込み、意地を見せた。

2年生までバンタム級(体重52〜56キ)の選手だったが、3年生でフライ級に転向。初めて減量に挑戦し、試合の約1カ月前からは食事や水の摂取を制限するなど「欲望と勝ちたい心が頭でぶつかり、眠れないこともあった」という。減量乗り越えて全国の舞台に立ち「精神的に強くなったことで、粘り強い戦いができるようになった」と感慨深そうに語る。

試合後に賞状を受けると、笑みもこぼれた。「県大会でも勝てなかった自分が全国で入賞できた。3年間、やめずに取り組んできて良かった」とすがすがしかった。(佐藤智哉)